

interview

アンソニー・ホロヴィッツ

私にとってのホームズ、そしてコナン・ドイル

大野和基 (ジャーナリスト)
=インタビュー

ホームズの続編を書く意味とは？ ホームズ作品の魅力とは何なのか？ 現代イギリスを代表する作家、脚本家であるホロヴィッツが、偉大なる先人コナン・ドイルへの思い、自身の創作活動の秘密などについて明かす。多忙を極めるスケジュールの合間を縫って行われた独占インタビュー。

※『緋の家』や『モリアーティ』、BBCドラマ『SHERLOCK』/シャーロック』に関するネタバレがあります。

——二〇一一年に、『緋の家』が出版されたとき、「コナン・ドイル財団が認めた六一編目の正典」だとメディアが沸きましたが、この作品を執筆することになった経緯を教えてください。
ホロヴィッツ シャーロック・ホームズの新バージョンはたくさんありますが、すべて未公認です。著作権はすでに消えているので、誰でも書けるわけです。コナン・ドイル財団、つまりコナン・ドイルの子孫たちが中心になって運営している団体ですが、彼らは以前からオフィシャルのお墨付きを与えたいと考えていて、私のエージェントを通して書いてみないかと打診してきました。個人的には小説の続編を書くことはあまり好きではありません。
シャーロック・ホームズだけでなく、ジェー

ムズ・ボンドやポワロなどのキャラクターを使って、有名作家に新しいものを書かせてベストセラーを出すという考えは、いささか安っぽく、品のないアイデアです。でも少し考えてイエスと返事をしました。決断まで時間をそれほど費やさなかったのは、小さいときからずっとホームズが大好きだったからです。七カ月前、自分の想像の世界でベイクカー街221Bに暮らすというアイデアは、抑えがたい魅力がありました。ホームズの続編でひどい本はたくさんありますが、自分が書くものは優れているという確信をもちたかったということもあります。

十箇条のルールを守れ

——このホームズ・シリーズを書くとき特に注意したことはありますか。「十箇条のルール」を自ら課したと言っていますが、これは、自分で作ったルールでしょうか。あるいは誰かに課されたルールでしょうか。

ホロヴィッツ 私自身が書き始める前に自分に課したルールです。オリジナルの作家の意図と世界に忠実でなければならない、というルールです。コナン・ドイルだけでなく、イアン・フレミングの続編を書くときにも常にそのルール



I 創作者が語る シャーロック・ホームズ & コナン・ドイル

1世紀以上にわたって、作家、映画・テレビ製作者たちに多大な影響を与えてきたホームズ、そしてコナン・ドイルの作品群。いま第一線で活躍する3人の作家たちにその魅力を問う。